

こだわりを持った自慢の家



外観が完成した自慢の家



家主の李東さん



建築中の李東さんの自宅全貌



足場をとりながらの屋根組み



玄関前の30cm角カラマツと同径40cm角椎茸丸太

川上村にお住まいの彫刻家の李東さんは、「一生に一度のごたごただからこだわりを持った家づくり」を進めています。

こだわり

そのこだわりとは、

- ① 地元産木材、特にカラマツをふんだんに利用すること。（実際に妻さんの実家の90年生カラマツを利用）
- ② 丈夫でしつかりとした部材を使い愛着をもって長く住めること。
- ③ 子供達が健康を害することがないよう科学物質の使用を控えること。
- ④ 過材適所使用で住み良く、かつメンテナンスコストを押さえること。
- ⑤ 遊び心も取入れ、各部屋毎に内装用壁板材の使用樹種を使い分ける。

自ら造る

まずはカラマツ、ケヤキ、アカマツなどの原木を集め自然乾燥し、譲り受けた製材機で自ら製材して建築するというスタイルで、2年前から家づくりを始めました。木材の継ぎ手部分の加工については、専門の業者さんにお願したほか、体調を崩した時などには技術専門校の友人がお手伝いしてくれたそうです。

延床面積は105坪、使われる樹種も推定で約20種類、木材総使用量は本人でも不明といわせるほど風呂に使われています。

完成は、今年の暮だそうですが、きっとすばらしい家が出来ていることでしょう。



和室の隅々までノ中庭